
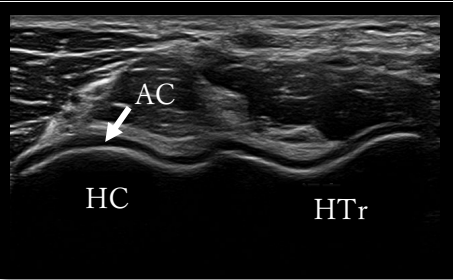
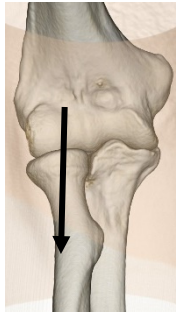
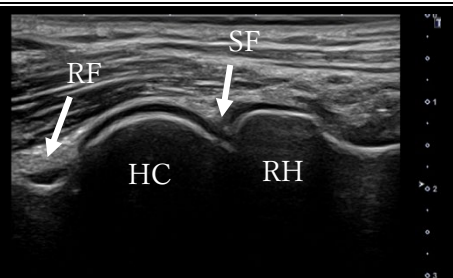
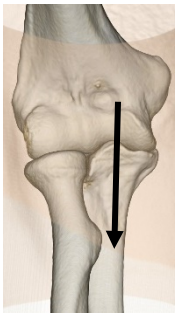
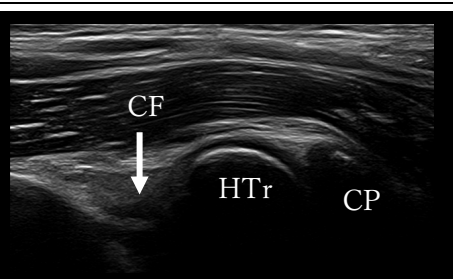
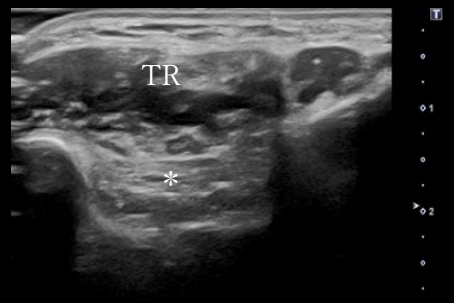


肘関節_走査説明

走査	描出像	観察部位	走査法	注意事項
<p>肘関節 屈側横断走査</p> 	 <p>AC : 関節軟骨 HC : 上腕骨小頭 HTTr : 上腕骨滑車</p>	<p>腕橈関節 上腕骨小頭 上腕骨滑車 橈骨頭 尺骨鉤状突起 橈骨窩 鉤突窩 近位橈尺関節</p>	<p>上腕骨に水平にプローブを当て、上腕骨遠位端まで走査する。橈骨頭との関節面を小頭、尺骨との関節面である滑車を確認する。両者の骨表面には無エコーの軟骨、その上に高エコーの関節包が描出される。プローブを遠位側に走査し、近位橈尺関節まで観察する。</p>	<p>横断走査では滑液貯留や滑膜肥厚だけでなく、軟骨病変や結晶沈着の存在にも注意して観察する。また、遠位側は近位橈尺関節まで走査し観察する。</p>
<p>腕橈関節 屈側縦断走査</p> 	 <p>HC : 上腕骨小頭 RF : 橈骨窩 RH : 橈骨頭 SF : 滑膜ヒダ</p>	<p>【腕橈関節】 上腕骨小頭 橈骨頭 橈骨窩 上腕骨外側上顆 短橈側手根伸筋腱 総指伸筋腱</p>	<p>横断走査において上腕骨小頭が中心になる位置で90度プローブを時計回転する。画面右側に遠位側である橈骨頭が、画面左側には近位側である上腕骨小頭が描出される。関節包は橈骨窩から橈骨頭の遠位まで存在し、関節面には無エコーの関節軟骨を、関節裂隙の直上には滑膜ヒダを認める。橈側にプローブをゆっくりと走査し外側上顆まで観察する。</p>	<p>少量の滑液が存在する場合は関節包近位の拡張を認める。前腕を回内・回外することにより滑膜肥厚や滑液貯留が明瞭に描出される場合がある。上腕骨外側上顆は前腕の伸筋の起始になっており、付着部炎をおこすことがあるため、付着部の骨表面の不整、腱の腫大やエコー輝度の石灰化の有無に注意しながら観察する。</p>
<p>腕尺関節 屈側縦断走査</p> 	 <p>CF : 鉤突窩 CP : 鉤状突起 HTTr : 上腕骨滑車</p>	<p>【腕尺関節】 上腕骨滑車 鉤突窩 尺骨鉤状突起 上腕骨内側上顆 内側側副靭帯 尺側手根屈筋腱 尺骨神経</p>	<p>縦断走査で尺側にプローブを移動させると、画面右側に遠位側である尺骨鉤状突起、画面左側に近位側である上腕骨滑車、更にその遠位側に鉤突窩を描出する。その後尺側にプローブを走査し内側上顆まで観察</p>	<p>関節包は鉤突窩から鉤状突起まで存在しているため網羅的に観察する。内側には内側側副靭帯や共通屈筋腱、更には尺骨神経が描出される。</p>

肘関節_走査説明

<p>腕尺走査 伸側縦断走査</p> 	 <p>O : 肘頭 TT : 上腕三頭筋腱 * : 肘頭窩</p>	<p>【腕尺関節】 上腕骨 肘頭窩 肘頭 上腕三頭筋腱</p>	<p>する。 肘頭窩の正中長軸方向にプローブを置き、画面右側に遠位側である肘頭を、画面左側に肘頭窩、その上には上腕三頭筋腱が描出される。肘頭窩では脂肪体の他、その下にある関節包を注意深く観察する。その後、橈側は上腕骨外顆、尺側は内側上顆までプローブを走査し観察する。</p>	<p>肘を十分に屈曲することによって肘頭の奥の滑膜まで描出できず、また肘頭は上腕三頭筋の停止部であり付着部炎をおこすことがあるため、付着部の骨表面の不整、腱の腫大やエコー輝度、石灰化の有無に注意しながら観察する。</p>
<p>腕尺関節 伸側横断走査</p> 	 <p>TR : 上腕三頭筋 * : 肘頭窩</p>	<p>【腕尺関節】 上腕骨滑車 上腕骨 肘頭窩 肘頭 上腕三頭筋腱</p>	<p>縦断走査での観察の後、プローブを90度反時計回転させ、肘頭から上腕骨滑車、肘頭窩、上腕骨骨幹部と横断面を連続的に観察する。</p>	<p>滑膜肥厚や滑液貯留を認めない場合は、肘頭窩は脂肪体が大半を占めているため低～等エコーレベルを示す脂肪組織が描出される。</p>